

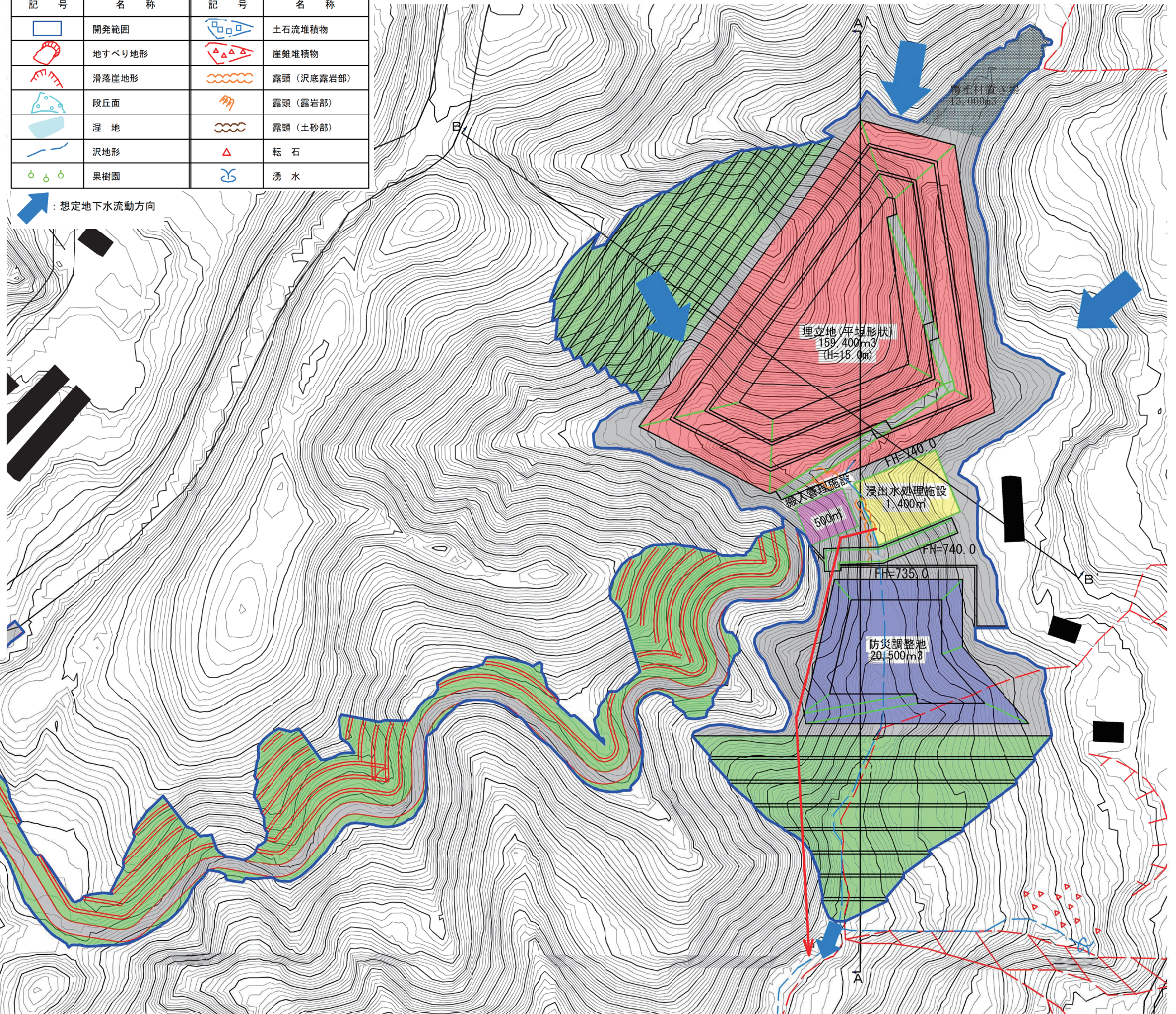
候補地No.	No.5
候補地名	小川村
	高府 (梶尾地区)
計画諸元	
構造形式 (一)	オープン型
埋立形状 (一)	平坦形状
埋立容量 (m³)	159,400
埋立高 (m)	15.0
敷地面積 (ha)	7.3
流域面積 (ha)	33.9
防災調整池容量 (m³)	20,500
防災調整池深さ (m)	5.0
搬入道路 (新設) (m)	730
搬入道路 (拡幅) (m)	0
面積諸元	
埋立地 (m²)	18,900
浸出水処理施設 (m²)	1,400
防災調整池 (m²)	5,600
搬入管理施設 (m²)	500
道路 (m²)	15,100
緑地 (m²)	29,500
緑地率 (%)	40.4
覆土材置き場 (m²)	2,000
土工量	
切土 (m³)	417,000
盛土 (m³)	375,000
残土* (m³)	0

施設構想図 (小川村 高府 : 梶尾)

A1 S=1:1,000  
A3 S=1:2,000

記号	名称	記号	名称
	開発範囲		土石流堆積物
	地すべり地形		崖錐堆積物
	滑落崖地形		露頭 (沢底露岩部)
	段丘面		露頭 (露岩部)
	湿地		露頭 (土砂部)
	沢地形		転石
	果樹園		湧水

: 想定地下水流動方向



凡例

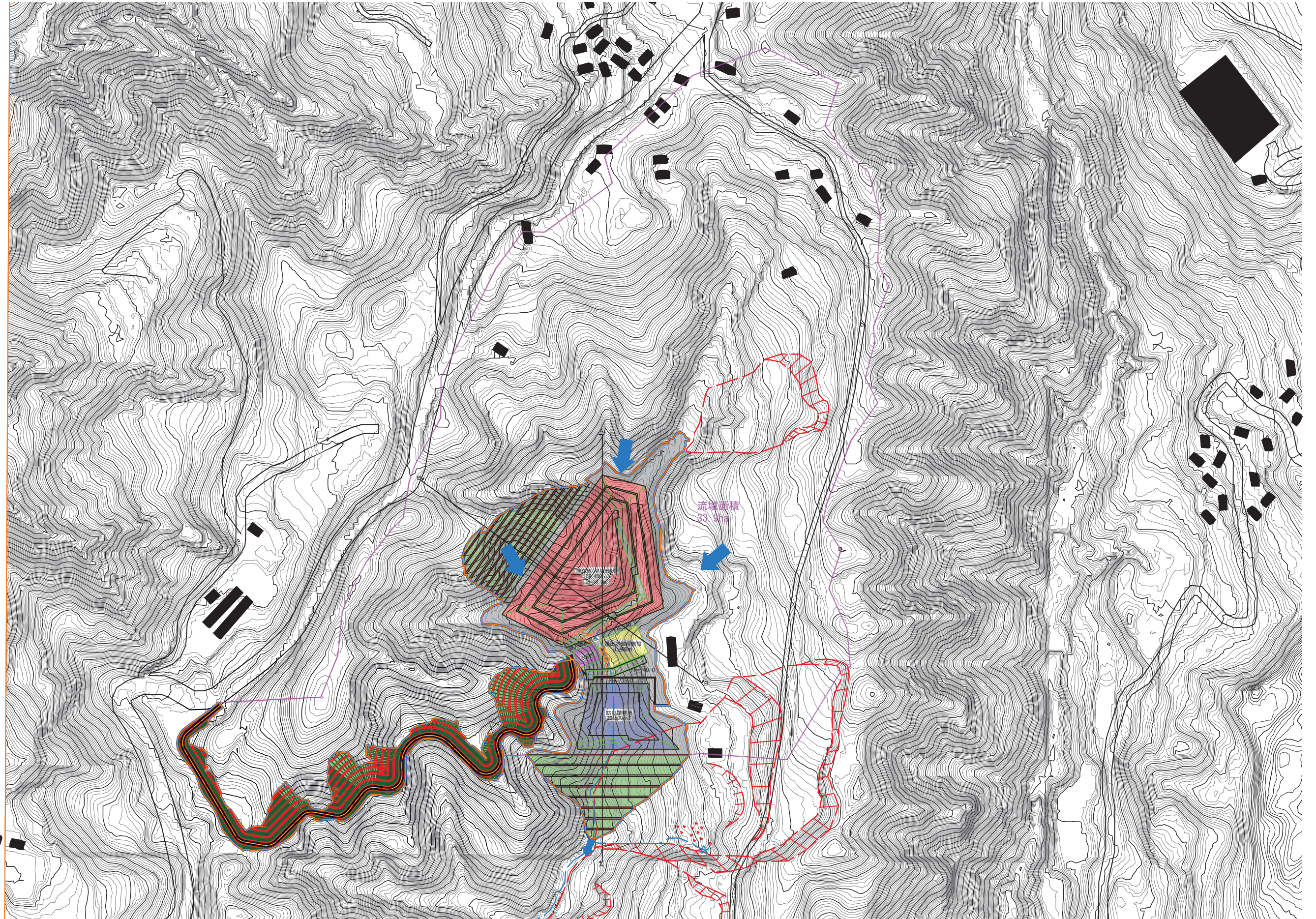
記号	名称

処理水の放流ルート (河川放流)



流域図(小川村 高府：梶尾)

A1 S=1:2,000  
A3 S=1:4,000



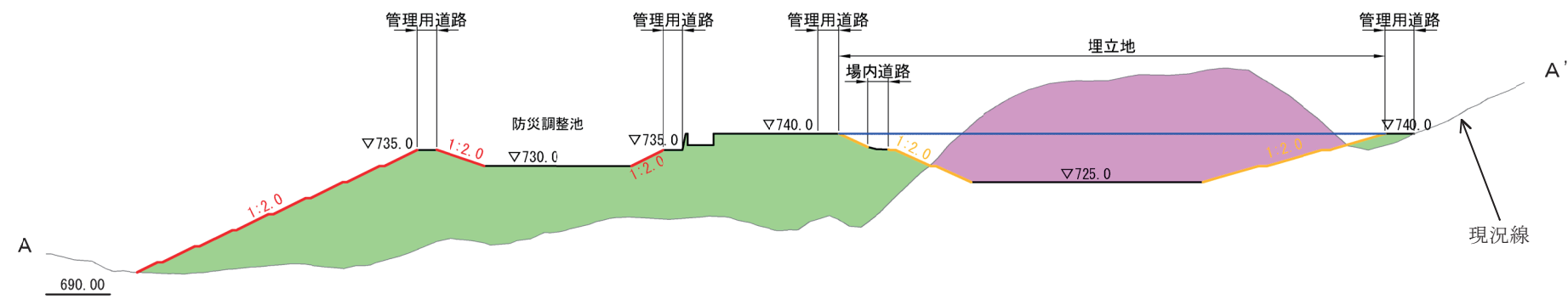
流域面積  
33.9ha



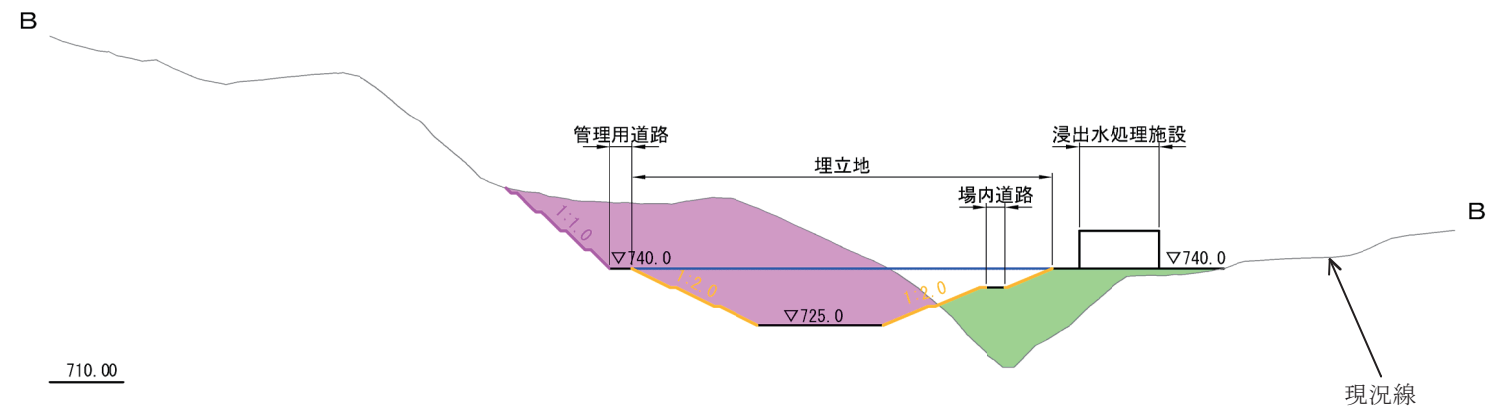
# 標準断面図(小川村 高府：梶尾)

A1 S=1:1,000  
A3 S=1:2,000

## 縦断面図



## 横断面図

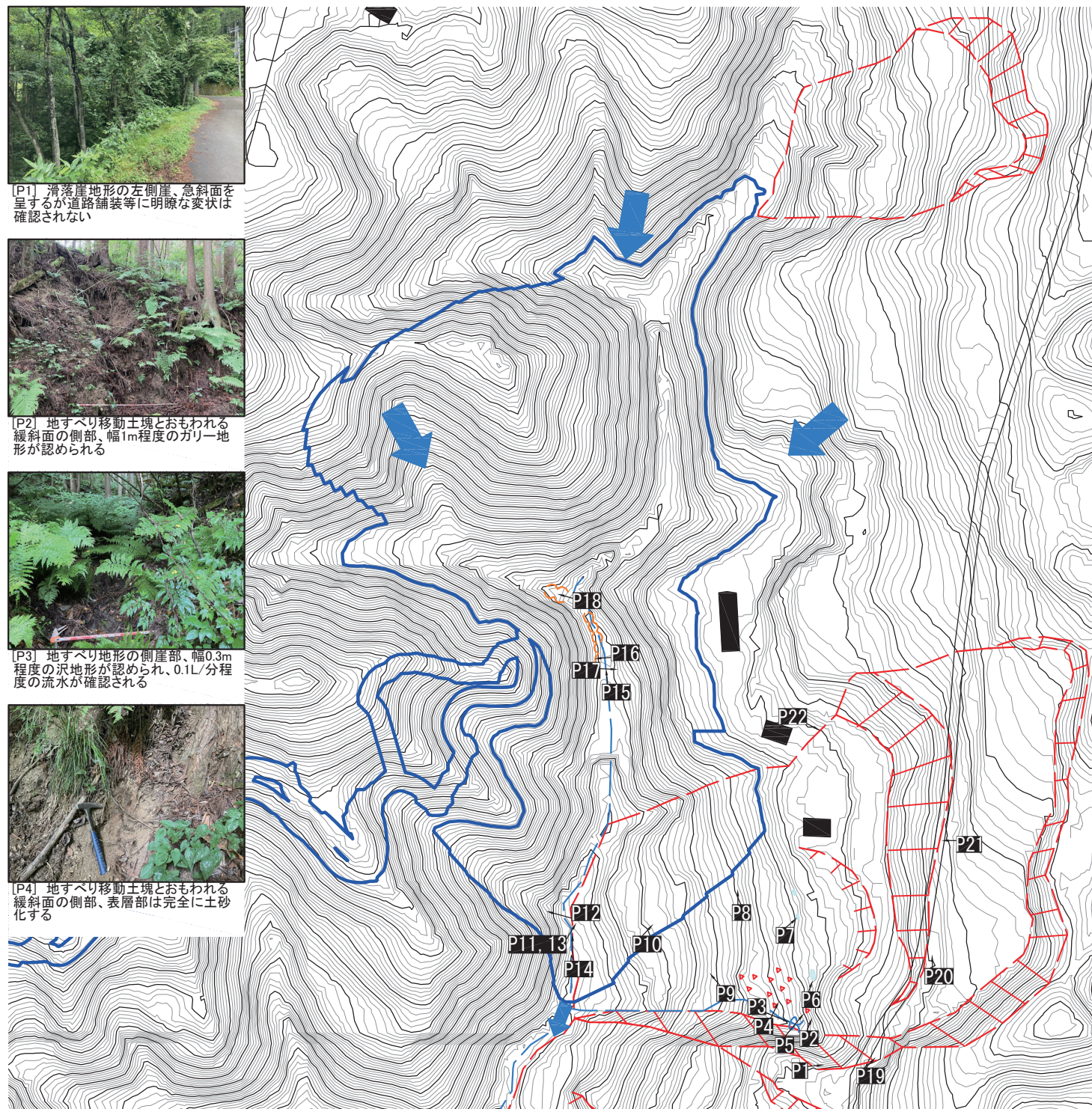




候補地の現況報告 (地形・地質・水文)

(小川村 高府：梶尾)

A1 S=1:1,500  
A3 S=1:3,000



[P1] 滑落崖地形の左側崖、急斜面を呈するが道路舗装等に明瞭な変状は確認されない



[P2] 地すべり移動土塊とおもわれる緩斜面の側部、幅1m程度のガリー地形が認められる



[P3] 地すべり地形の側崖部、幅0.3m程度の沢地形が認められ、0.1L/分程度の流水が確認される



[P4] 地すべり移動土塊とおもわれる緩斜面の側部、表層部は完全に土砂化する



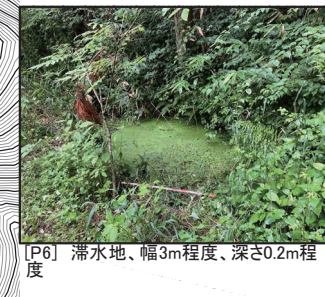
[P5] 地すべり移動土塊とおもわれる緩斜面の側部、表層部は完全に土砂化する



[P11] 地すべり移動土塊末端部、土砂化している崩壊土が沢部で分離するもの、顕著な押し出し等は確認されない



[P17] 左岸斜面の末端部、地すべり移動土塊とおもわれ完全に土砂化する



[P6] 滞水地、幅3m程度、深さ0.2m程度



[P12] 右岸斜面、表層崩壊跡とおもわれる凹地形や崩壊土が確認されるが、左岸斜面に比べて安定している



[P18] 右岸側の沢地形部、塊状の細粒砂岩が分布する



[P7] 平坦面下の段差脚部には滞水が認められる



[P13] 左岸斜面の末端部、地すべり移動土塊とおもわれ完全に土砂化する



[P19] 地すべり地形の頭部滑落崖に位置するもの、道路擁壁、排水溝も含め顕著な変状は認められない



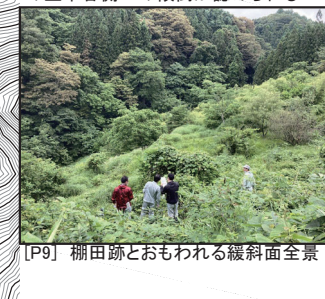
[P8] 平坦面の段差は最大約2m程度の比高差あり(水田跡)、胸高幹径0.4mの立木谷側への傾倒が認められる



[P14] 沢底部、流路幅0.8mで、河床堆積物は少ない



[P20] 地すべり地形の頭部付近、道路に地すべり性のクラックや陥没は認められない



[P9] 棚田跡とおもわれる緩斜面全景



[P15] 計画地の少し上流部では、右岸沢底に泥岩が露出、左岸側は崩壊土に覆われる



[P21] 地すべり頭部の滑落崖付近から下方緩斜面全景



[P10] 地すべり移動土塊とおもわれる緩斜面の堆積物、土砂化する



[P16] 沢底に露出する泥岩、塊状無層状でハンマー打撃で濁音を発する程度、顕著な亀裂等は確認されない



[P22] 地すべりブロック右側から地すべり頭部付近の全景、道路や斜面に地すべり性の変状は認められない

記号	名称	記号	名称
	開発範囲		土石流堆積物
	地すべり地形		崖錐堆積物
	滑落崖地形		露頭 (沢底露岩部)
	段丘面		露頭 (露岩部)
	湿地		露頭 (土砂部)
	沢地形		転石
	果樹園		湧水

地区	評価項目	現地概要	現地写真
小川村	地形	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側の緩斜面には地すべり地形が認められるが、最近の変動を示す変状地形(亀裂や段差、崩壊地形など)はなく、水田の耕作跡地とおもわれる</li> <li>西側斜面は急勾配で、表層崩壊跡は認められるが概ね安定している</li> </ul>	P1、P8、P9、P12、P19、P20、P21、P22
	地質	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側緩斜面の表層部は完全に土砂化する</li> <li>沢底堆積物は数m程度で顕著な軟弱層や巨礫の堆積は確認されない</li> <li>計画施設位置付近には新第三紀の堆積岩(泥岩~細粒砂岩)が沢底と右岸斜面脚部周辺に露出する</li> </ul>	P4、P5、P10、P11、P13、P14、P15、P16、P17、P18
	(地下水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側の緩斜面では、標高737m付近で湿地や沢の流水が認められることから、地下水位が高いことが想定される</li> <li>取水施設は確認されない</li> </ul>	P3、P6、P7
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>東側の緩斜面には、幅200m程度の大規模な地すべり地形が認められるため、地形改変を伴う施設計画は留意が必要となる</li> <li>西側斜面は受け盤、東側斜面は流れ盤の地質構造となるため、切土時の安定勾配検討時には留意が必要となる、また風化しやすい岩質となるため、法面保護工が必要となる</li> </ul>	

: 写真位置・番号、撮影方向

: 想定地下水流動方向

地形・地質 現地踏査結果図 (小川村 高府：梶尾)



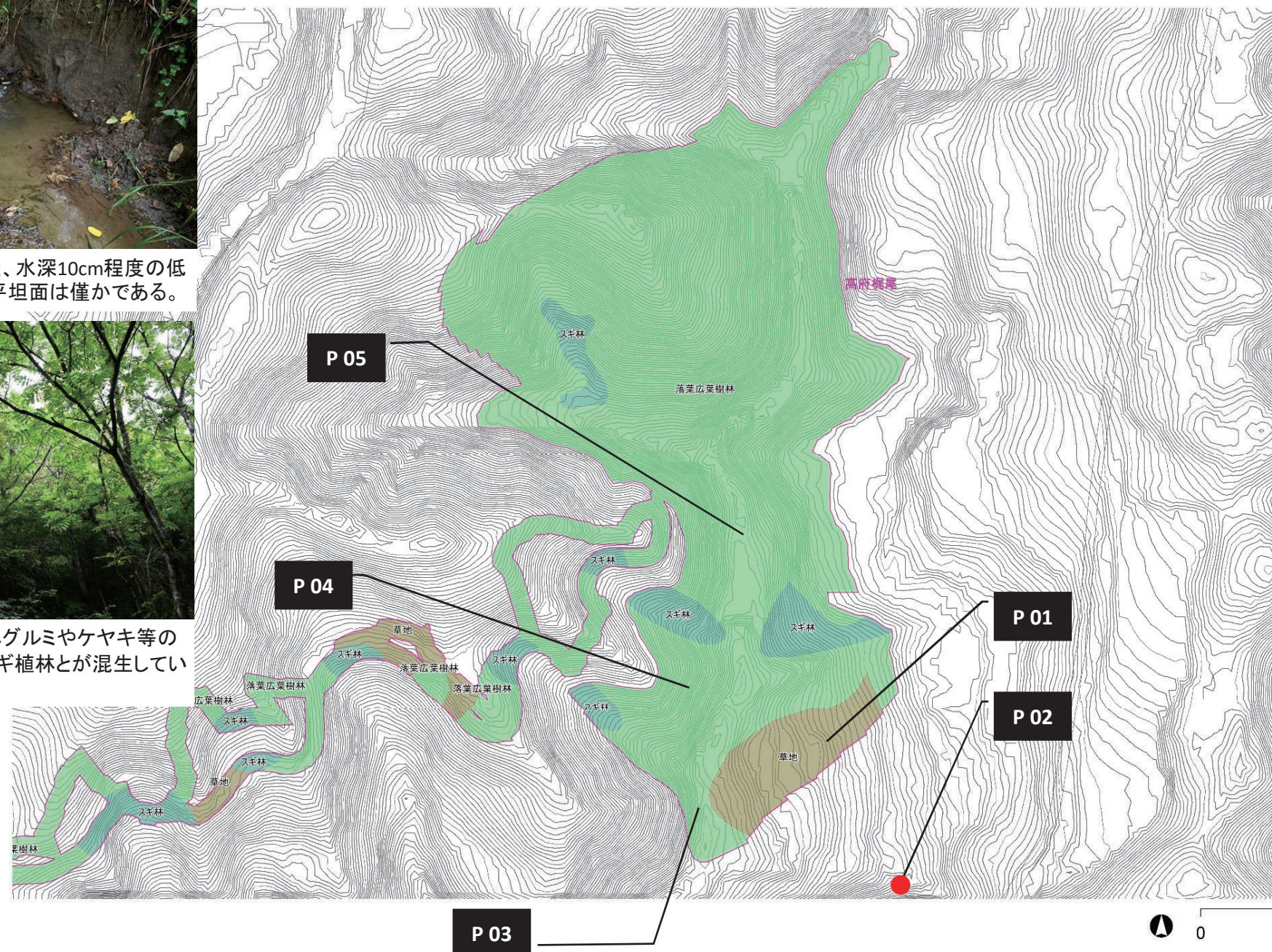
候補地の現況報告（動植物） 高府梶尾



[P 05] 谷底には、幅1m前後、水深10cm程度の低水路が流れている。谷底の平坦面は僅かである。



[P 04] 右岸側の斜面は、オニグルミやケヤキ等の生育する落葉広葉樹林とスギ植林とが混生している。



[P 02] 池(大きさ:2m×1m程度、深さ15cm程度)が確認された。池では、アカハライモリ(両生類、環境省RL・長野県RDB:準絶滅危惧種)やモリアオガエル(両生類長野県RDB:準絶滅危惧)、コガムシ(昆虫類、環境省RL:情報不足、長野県RDB:留意種)が確認された。



[P 03] 谷底には、幅1m前後、水深10cm程度の低水路がある。谷底の幅は狭く、湿生の植物群落が形成されている箇所は少なく、平坦面の一部にヨシ群落が確認されたのみである。

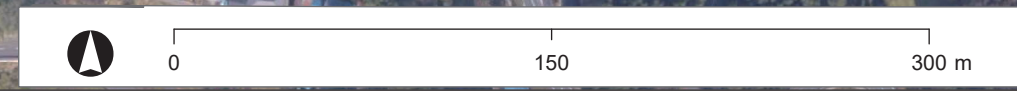
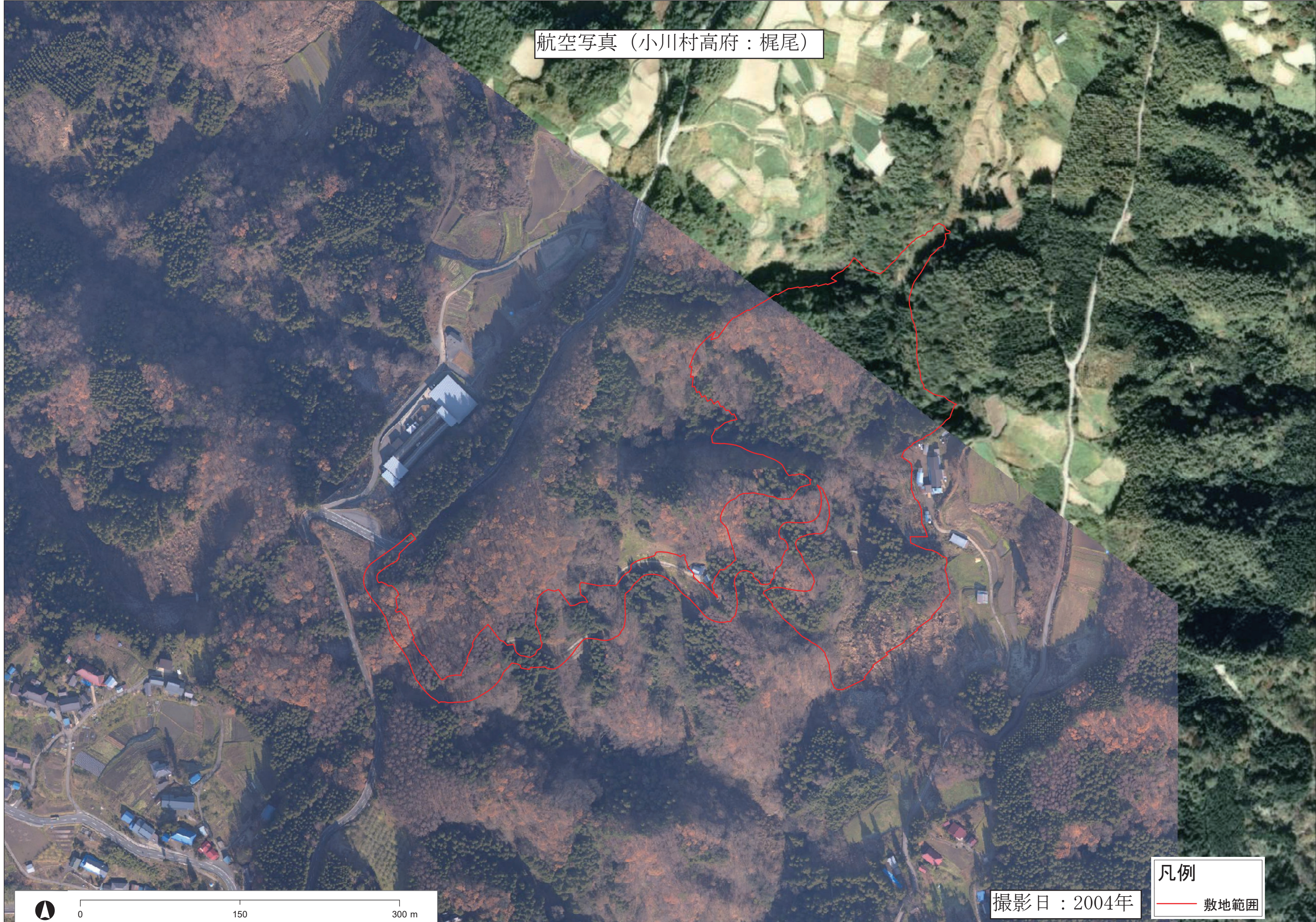


[P 01] 斜面上部は畑地跡地、斜面下部は水田跡地と考えられる。斜面上部はオギ、斜面下部はヨシが密生している箇所が多い。所々にイノシシによるものと考えられる掘りおこし跡が確認された。

評価項目		現地概要
希少動植物の確認状況	動物	アカハライモリ(環境省RL・長野県RDB:準絶滅危惧種) モリアオガエル(長野県RDB:準絶滅危惧) コガムシ(環境省RL:情報不足、長野県RDB:留意種)
	植物	なし
	生息・生育環境	・左岸側上部の池は、両生類及び水生昆虫の生息地となっている。 ・沢は、泥質の河床となっており、トンボ類やアブの幼虫といった底生動物の他、サワガニ等の水生生物の生息地となっている。
自然の改変度	・左岸側の斜面は耕作放棄地となっている。斜面上部は畑地跡地と考えられオギが生育しており、斜面下部は水田跡地と考えられヨシが生育している。 ・右岸側の斜面の下流側は、スギ植林、上流側は、オニグルミやケヤキ等からなる落葉広葉樹林(植生自然度7)となっている。	
留意点	・谷左岸側の池では、希少な両生類や水生昆虫が確認されていることから、池が消失する場合は、移殖や代替生息環境の創出等の環境保全措置が必要となる可能性がある。	



航空写真（小川村高府：梶尾）



撮影日：2004年

凡例  
— 敷地範囲



広域図（小川村高府：梶尾）

